

王国興亡の預言 四頭の大きいなる獣 聖書通信 22号

前回考慮したバビロニア、メディア・ペルシャ、ギリシャ、ローマ、英米世界強国、神の王国に関してさらに詳細な預言がダニエルに与えられました。

今回はその預言に注目してみましょう。

聖書のダニエル書の七章に次のような記述があります。

バビロンのベルシャザル王の治世の第1年に、ダニエルは夢を見た。床に就いていた時に頭の中で幻を見たのである。それで、その夢を書き留め、見た内容を全て記録した。

ダニエルは言った。

「私が夜に幻を見ていると、天の四方の風が広大な海を波立たせていた。そして、4匹の巨大な獣が海から出てきた。それぞれ姿が異なっていた。

1匹目の獣はライオンに似ており、ワシの翼があった。私が見ていると、翼は引き抜かれ、その獣は地上から持ち上げられて、人間のよう^に2本足で立つようにされ、人間の心を与えられた。

2匹目の獣は熊に似ていた。前足を上げ、口には3本のあばら骨をくわえており、『起き上がって、肉をたくさん食べよ』と言われた。

さらに見ていると、別の獣が現れた。ヒョウに似ており、背中に鳥のような翼が4つあった。頭も4つあり、支配する権威を与えられた。

この夜、私が見ていた幻の中で、続いて4匹目の獣が現れた。恐ろしく、すさまじい獣で、非常に強く、大きな鉄の歯があった。この獣はむさぼり食い、打ち砕き、残ったものを足で踏みにじった。それまでのどの獣とも異なっており、10本の角があった。私が角を眺めていると、それらの間に別の小さな角が生えてきて、初めにあった角のうち3本が引き抜かれてしまった。生えてきた角には人間のよう^な目があり、高慢に語る口があった。



さらに見ていると、王座が据えられ、年月を経た方が座った。その方の衣服は雪のように白く、髪の毛は真っ白な羊毛のようだった。王座は炎であり、その車輪は燃える火だった。その方の前から火が川のように流れ出ていた。その方に仕えている者は千の千倍、その方の前に立っている者は1万の1万倍いた。法廷が開廷し、書物が開かれた。

角が高慢な言葉を語り続けるので、見ていると、獣は殺され、その体は燃える火の中に投げ込まれて滅ぼされた。残りの獣は、統治権を取り去られたが、ひとときの間生かしておかれた。

この夜、私が見ていた幻の中で、今度は天の雲と共に人の子のような者がやって来た。その者は年月を経た方に近づくことを許され、その方のすぐ前に連れてこられた。その者に統治権と栄誉と王国が与えられ、あらゆる民族や国や言語の人々が彼に仕えるようにされた。その統治は終わることなく永遠に続き、その王国は滅ぼされることはない。

私ダニエルは、頭の中で見た幻のせいで怖くなり、心がかき乱された。それで、立っている者の1人に近づき、見た事柄の意味を尋ねた。すると彼は答えて、これらのことを解き明かしてくれた。

『この4匹の巨大な獣は、地上で権力を持つようになる4人の王です。しかし、至上者の聖なる者たちが王国を受け、いつまでも永遠に王国を手にします』。

私は4匹目の獣についてさらに知りたいと思った。それはほかのどの獣とも異なっていた。並外れて恐ろしく、鉄の歯と銅の爪を持ち、むさぼり食って打ち砕き、残ったものを足で踏みにじっていた。頭には10本の角があり、別の角が生えてきて3本が抜け落ちた。生えてきた角には目と、高慢に語る口があり、ほかの角よりも大きく見えた。私はこれらについても知りたかった。

見ていると、その角が聖なる者たちに戦いを仕掛け、優勢になったが、年月を経た方が来て裁きを下し、至上者の聖なる者たちが勝利を取めた。そして定められた時が来て、聖なる者たちが王国を手にした。

解き明かしをしてくれた者はこう言った。『4匹目の獣は、地上に生じる4番目の王国です。それはほかのどの王国とも異なり、全世界をむさぼり食い、踏みにじり、打ち砕きます。10本の角は、その王国から出て権力を持つようになる10人の王です。その後さらに別の王が権力を持ちます。彼は先の王たちとは異なり、3人の王を辱めます。そして至高者に逆らう言葉を語り、至上者の聖なる者たちを絶えず悩ませ、時と法を変えようとし、聖なる者たちは一時と二時と半時の間、彼の手に渡されます。しかし、法廷が開廷し、彼の統治権を取り去りました。彼を根絶やしにし、完全に滅ぼすためです。

王国と、統治権と、天の下の全ての王国の栄光は、至上者の聖なる者たちに与えられました。彼らの王国は永遠に存続し、全ての国の人々は彼らに仕え、従います』。(ダニエル 7:1-27)

4頭の獣が登場するという驚愕するような幻がダニエルに与えられます。

ではこの幻を解き明かしていきましょう。

一番目に登場するのがライオンのような獣でワシのような翼があり、人間の心を持っています。

1匹目の獣はライオンに似ており、ワシの翼があった。私が見ていると、翼は引き抜かれ、その獣は地上から持ち上げられて、人間のように2本足で立つようにされ、人間の心を与えられた。

歴史はそのライオンがバビロニア帝国であることを示しています。



バビロンはライオンで象徴されるのにふさわしい

二番目に登場するのが熊に似た獣で3本の骨をくわえています。

2匹目の獣は熊に似ていた。前足を上げ、口には3本のあばら骨をくわえており、『起き上がって、肉をたくさん食べよ』と言われた。



これはメディア・ペルシャを表しています。確かにメディアペルシャは主要な王国バビロン、リディア、エジプトを支配し、3本のあばら骨をくわえていたと言うことができます。

三番目に登場するのがヒョウに似た獣で翼が4つ、頭も4つある獣です。

さらに見ていると、別の獣が現れた。ヒョウに似ており、背中に鳥のような翼が4つあった。頭も4つあり、支配する権威を与えられた。



これはギリシャを表しています。確かにギリシャはヒョウのようななどてつもない速さで支配領域を拡大し、アレクサンダー大王が亡くなった後、四人の将軍によって分割統治されたことから明らかです。

四番目に登場するのが恐ろしく、すさまじい獣で、大きな鉄の歯をもった獣です。

この夜、私が見ていた幻の中で、続いて4匹目の獣が現れた。恐ろしく、すさまじい獣で、非常に強く、大きな鉄の歯があった。この獣はむきほり食い、打ち砕き、残ったものを足で踏みじった。それまでのどの獣とも異なっており、10本の角があった。私が角を眺めていると、それらの間に別の小さな角が生えてきて、初めにあった角のうち3本が引き抜かれてしまった。生えてきた角には人間のような目があり、高慢に語る口があった。

鉄の歯を持つと言うところから明らかのように、ローマ帝国を表しています。

では十本の角とはなんでしょうか。これはローマ帝国から出る諸国家を表しています。

その中でも「別に出てくる一本の角」に注目することができます。この角とは何でしょうか。

歴史上、これはイギリスであると言えます。

イギリスはローマ帝国の最北に位置し、11世紀頃から歴史の舞台に登場します。

「初めにあった角のうち3本が引き抜かれてしまった」とありますが、どのように成就したのでしょうか。イギリスは預言通り、ローマ帝国から生じたヨーロッパ諸国の中のオランダ、フランス、スペインを打ち破りました。

前回考慮した巨像の中でも述べているように、イギリスは後にアメリカと強固な同盟関係を結び英米世界強国として活動してきました。

最後に「いと高き者の聖徒たる民」、つまり神の王国が勝利を収めることが再び強調されています。

そのことが次のように語られています。

王国と、統治権と、天の下の全ての王国の栄光は、至上者の聖なる者たちに与えられました。彼らの王国は永遠に存続し、全ての国の人々は彼らに仕え、従います。』。

ダニエルは前500年代に活躍した人物ですが、その預言は詳細な点に至るまで、ことごとく成就してきました。まさにこうした点からも、メシア王国による人類の救済という神の目的が必ず達成されることを確証しています。そのことは次の記述からも分かります。

天の雲と共に人の子のような者（イエス）がやって来た。その者は年月を経た方（エホバ）に近づくことを許され、その方のすぐ前に連れてこられた。その者（イエス）に統治権と栄誉と王国が与えられ、あらゆる民族や国や言語の人々が彼に仕えるようにされた。その統治は終わることなく永遠に続き、その王国は滅ぼされることのない。

ネブカドネザルの夢とダニエルの預言

